

厳しい環境条件下におけるサンゴ礁の保全・回復に向けた漁場造成技術実証事業

令和9年度予算概算要求額 141百万円（前年度123百万円）

＜対策のポイント＞

漁場環境の保全の観点から、海象条件の厳しい海域において衰退したサンゴの効率的・効果的な保全・回復を図るため、**高水温耐性サンゴ**を種苗生産し、大規模な幼生の供給基地となる**サンゴ産卵ファームの形成**に向けた増殖技術の実証及びサンゴ育成基盤の開発を実施するとともに、沖ノ鳥島のサンゴ生息状況等に関するモニタリング等を実施し、サンゴ礁の保全・回復に向けた漁場造成技術を確立する。

＜事業目標＞

- 高温耐性サンゴによるサンゴ産卵ファーム形成面積 5.5～9.0 m<sup>2</sup>/年[令和13年度まで]

＜事業の内容＞

1. サンゴ産卵ファームの形成 83百万円

沖ノ鳥島等の遠隔離島や海象条件の厳しい海域において、サンゴ幼生の大規模な供給基地となる**サンゴ産卵ファームの形成**を目指し、**高水温耐性サンゴ**を選抜育種し種苗生産を行った幼生及び稚サンゴを効率的に着床させる増殖技術の実証を実施します。

また、サンゴ産卵ファームの幼生供給機能を高め、高水温耐性サンゴを効率的に移植するための**サンゴ育成基盤の開発**を行います。

さらに、**サンゴの成長促進に係る調査及び実証**を行います。

2. 沖ノ鳥島モニタリング 58百万円

沖ノ鳥島のサンゴ生息環境等に関するモニタリングを実施するとともに、衛星画像解析やAI自動判別、環境DNA等のモニタリング技術を活用し、**沖ノ鳥島ハビタットマップ**を効率的かつ高精度に作成します。

また、サンゴ礁の保全・再生に取り組む民間企業、大学等研究機関と連携し、実海域での実証による技術的知見をとりまとめます。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

有性生殖による種苗生産

沖縄から沖ノ鳥島へ長距離輸送

サンゴ産卵ファーム※候補地

※親サンゴの育成に適した大規模な幼生供給基地

高水温耐性サンゴのDNA解析

基盤の開発

サンゴ産卵ファーム《高水温耐性サンゴを基盤上に移植し効率的にファームを形成》

周辺の天然岩盤等へサンゴ幼生を供給《サンゴ産卵ファームから周辺への広がり》

設置後の状況

高水温暴露中のサンゴ

【お問い合わせ先】 水産庁事業課（03-6744-2390）